

様式5（研究評価用）

平成20年度三重大学COEプロジェクト研究評価結果通知書

区 分	<input type="checkbox"/> 世界れる世界トップレベルの研究拠点 <input checked="" type="checkbox"/> 学部として育てたい国内トップレベルの研究
研究 題 目	四日市公害問題の再評価と国際環境協力（四日市学）を通じた総合環境研究及び環境教育拠点づくり
研究代表者	人文学部 朴 恵淑 教授
総括評価	<div style="text-align: center;"> <span style="margin-right: 100px;">A</span> <span style="margin-right: 100px;"><span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 10px;">B</span></span> <span>C</span> </div>
コメ ン ト	<p>○代表者の強いリーダーシップのもとに三重県に特色ある総合環境研究および環境教育が推進されている。代表者が十分にマネージャーとしての役割も果たしている。メンバー間の連携による成果が論文等に反映されることが期待される。環境研究は三重大学の柱となり得るので、全学的融合研究に発展することも期待したい。</p> <p>○成果としてどのようなものが生み出されたのか不明確な印象でした。そのことは将来の人材育成や新たな知見の創出にとって重要だと思われる。</p> <p>○本研究は、国際的なネットワーク型環境教育の拠点形成を行うことが主目的であるが、その目的に照らすと、韓国の各専門家と共同研究チームを構成し、種々の調査を実施したことは、目的達成の第一歩として評価出来る。また、日本の「四日市学」が「アジア学」での道程に位置する可能性が高いという新たな知見が得られたことも成果の1つと考えられる。これらの成果は構成員の有機的連携なくしてはあり得ないことは明らかである。今後の展望は総花的に感じられるから、焦点を絞って取り組むべきでないか。</p>